

6/26  
朝日

## 原発ゴミ10万年保管は心配

無職

(岡山県 68)

8日の朝日新聞1面には二つのニュースが載りました。

日本原子力研究開発機構の大洗研究開発センターで保管容器から放射性物質が漏れ、作業員が被曝。もう一つは北アフリカのモロッコで初期の現生人類の30万年前のものとみられる化石が見つかった記事。この偶然同じ紙面に載った一見無関係に見える記事が大事なことを示しています。

1991年に保管容器に放射性物質を封入して以来、最初の内部点検でこの事故。国の研究機関の中で厳重管理さ

れているはずなのになぜ起きたのか。全国の原発でゴミとして出たプルトニウムが大量にたまり続け、それをどう長期保存するか、国民の不安が高まっています。政府の方針では地中深くに作る特殊な保存施設で10万年間保存するそうですが、想像すると10万年がいかに長いかわかります。

一説には、アフリカで生まれた現生人類が地球全体に広がりを始めたのが約10万年前。日本列島に住み始めたのは4万年前。こんな人類史的スケールの時間をまたいで本当にプルトニウムを安全に保管できるのか。心配になりました。